

## 2014 年度春学期 (ACTS-ES は通年科目を含む)

### 学生による授業評価アンケート結果の評価

#### 神学部

学生の授業への評価は、概ね良好であるが、一科目に対する学習時間が平均 1.2 時間は、まだ少なすぎる。教員が学生への課題を多くするには全体での検討が必要だろう。加えて、語学や実習などに求められる学生の負担も考慮しなければならない。

#### コア・教養

教育・コア関連科目における授業評価は、全体的に概ね良好であった。チーム・ティーチング・クラスの教員間連携に関して、例年同様、多少の課題が挙げられていたが、昨年度の評価よりも改善されていると感じた。パワーポイントやレジメの用法に対するリクエストが見られ、改善のための努力の必要性が伺われた。授業形態としては、グループ・ラーニングやグループ・プロジェクトといった学生参加 (アクティブラーニング) 型の授業に対する評価が非常に高かった。

#### 神学科

2014 年度春学期も、概ね大過なく、学生たちが神学科の提供授業を評価している。勿論、科目や担当教員によって評価に多少のばらつきはあるが、この人数なので、科目の内容、教員の資質および履修している学生の資質や興味など様々な要素が反映して当然の結果だと思う。平均値は 3 点から 4 点の間で、3 点に近い場合から 4 点に近い場合とに妥当な評価であり、ほぼ妥当なレベルで教員が授業を実施しているものと判断する。敢えて言えば、非常勤講師担当の科目が 3 点を下回っている。学生たちのレベルに対して授業のレベルおよび要求度が少し高めに設定されているものと思われる。

#### ACTE-ES

Students describe professors as: compassionate, merciful, enthusiastic, knowledgeable

Students describe certain classes as: fun, enjoyable, interesting, informative, inspiring, efficient, challenging (made us think on our own), important, very relevant for ministry, well structured, lively, interactive, fascinating, fantastic, fruitful and interesting to have 3 professors team teach

Students say they appreciate: online work, reading short stories, skits, videos, interviewing others, reading assignments as preparation for class sessions, good engagement between the teacher and students, discussions (class and group), weekly quizzes, question and answer time, presentations, debates

Students request: more reading assignments, more effective use of projector and multimedia, more advanced notice about final reports, contemporary examples to make it relevant, stricter grading based on participation, more up-to-date textbook, quizzes testing deep understanding (not true/false quizzes), better preparation for debates

### 国際キリスト教学専攻

春学期、国キ専攻科目に対する学生の評価は概して良好であった。特に、英語科目において、多読を重視するビッグイングリッシュプログラムが担当教員の創意工夫もありかなり定着してきたことは喜ばしい。欠席が多かった学生も含めて、クラスに参加すれば必ず英語の実力が向上すると信じ、次学期以降の努力を誓っている点は特記すべきだ。他の科目も学生らの多くのコメントが寄せられ、各教員が参加型クラスを作り上げるため多くの準備をしていることが伺われる。今後もこの努力を続けたい。

### キリスト教福祉学専攻

概ね、春学期の授業に対する満足度は高かった。ただし、発表の仕方や成績の評価に疑問を抱くものもみられたので、指示や評価は、はっきりと示すようにしたい。これに対して、科目とアンケートの内容が一致しない回答がみられた。これは、シラバスを見ていないと考えられる。学生の授業に対する態度や学ぶ意欲もさまざまであり、評価もさまざまであるが、とりあえずは意見を受け止めておきたい。また、福祉棟はチャイムが聞こえにくいため、時間の超過に対する意見が見られた。

### 神学研究科

全体的に高評価で、教員の努力が伺われた。受講者が少なかった「教会と法律」も好評で毎年開講の希望もあり、受講に向けて履修指導に工夫が必要である。神学研究の基礎については内容と課題の多寡について、再度、教員間の打ち合わせが求められる。神学特論はアンケートの回収率に課題があった。

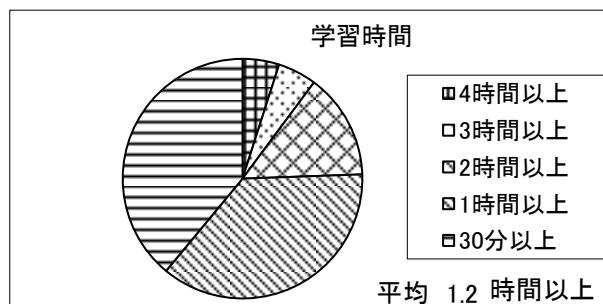
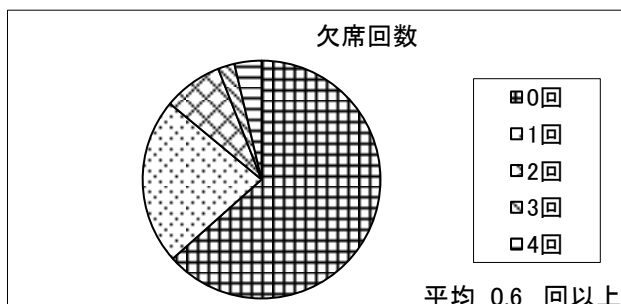
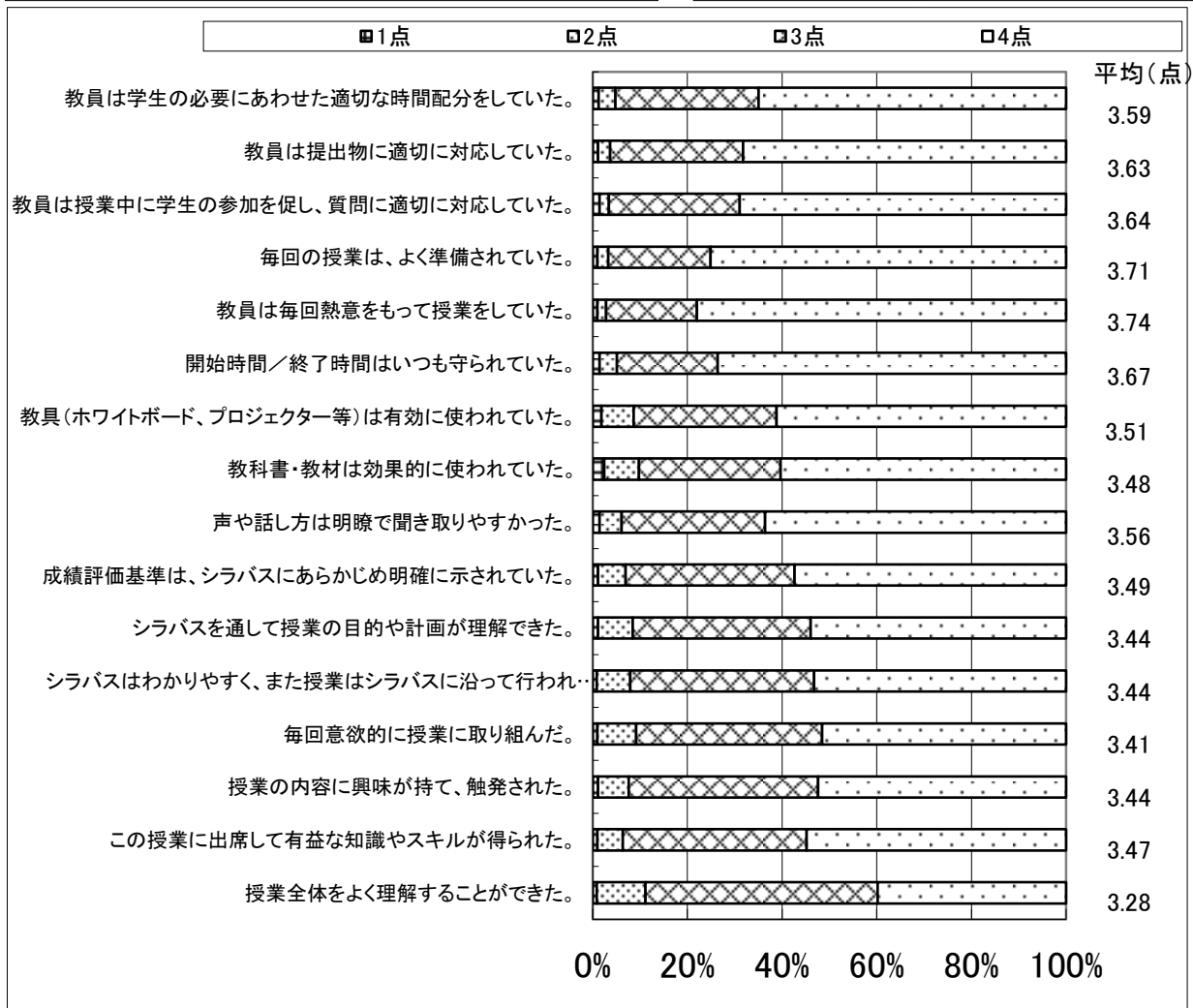
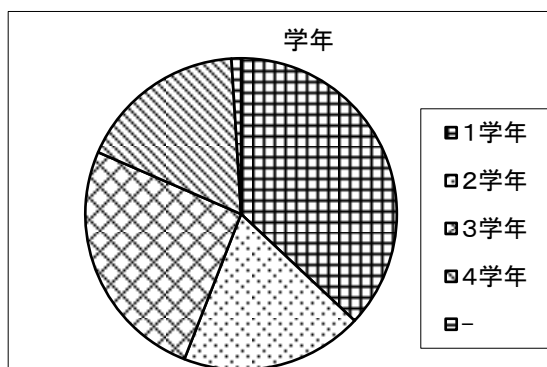
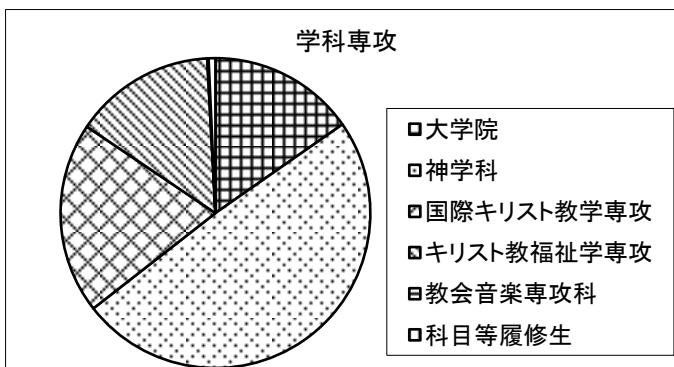
### 教会音楽専攻科

専攻科生2人はそれぞれ高齢・持病のハンディを持ちながらも、授業を受ける姿勢においてもまた、課題に対しても真摯に取り組み、良い効果を上げていた。ここでの学びの成果は、すぐに実践の場で役に立つであろう。

2014年10月28日  
教授会 資料

# 2014年度授業評価アンケート結果

学期 春学期  
科目名 日本語提供科目平均



# 2014 Class evaluation result

Term Spring  
Course Title ACTS-ES(average)

